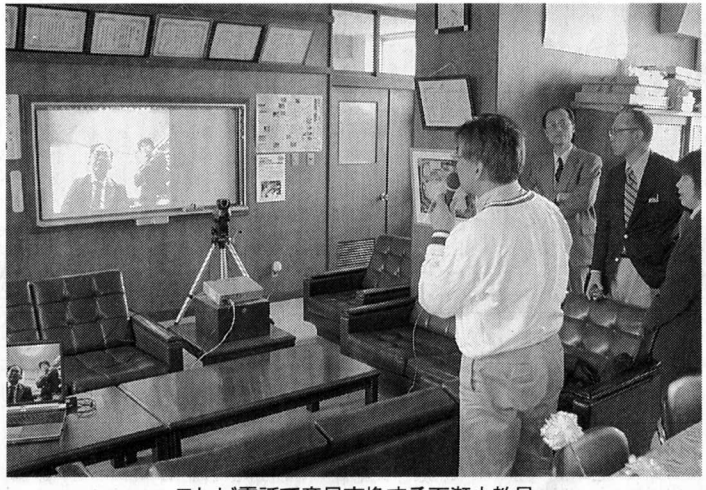
連携事業で意見交換

市教委と宮教大　面瀬小会場にテレビ会議

気仙沼



テレビ電話で意見交換する面瀬小教員

気仙沼市教委と宮城教育大学の連携事業の一環として、同大学環境教育実践研究センターとの第一回連携テレビ会議が六日、面瀬小学校で開かれた。村松隆センター長をはじめとするスタッフと、同校教員がインターネット回線を通じて交流を深めた。市教委と宮教大は先月二十三日、学校現場の「教育力アップ」に向けた覚書を締結しており、教育研究や教員養成などでの連携強化が期待される。

校長室で開かれたテレビ会議には、山崎昭校長と各学年の教員らが参加。室内に設置されたパソコンなどからの映像を通じて、学年ごとに教員がそれぞれ自己紹介したほか、これまでの環境教育の実績を踏まえ、本年度の研究目標などについて、センターのスタッフと三十分ほど意見交換した。

学校との連携について、村松センター長は「我々を大学の教授として構えるのではなく、双方が仲間意識を持ちながら、まずはコミュニケーションを図っていくことが大事」としたうえで、「環境教育のノウハウを学ぶため、互いに意思疎通を図っていきたい」と意欲を示した。

この日のテレビ会議では、同センターが取り組む環境教育ライブラリーが紹介された。関連する図書や文献、水質調査などに関する専門機器を県内の学校に教材として貸し出すというもので、同センターでは「大学のスタッフも合わせて派遣させたい」としている。

面瀬小では、十四年度から宮教大との連携交流に乗り出しており、本年度も「水辺環境と人間生活」をテーマに、各学年で関連した授業を展開する。

「相手の心わかる人に」

東北福祉情報専門学校　45人が入学

気仙沼

気仙沼市三日町、東北福祉情報専門学校（川上吉昭校長）の入学式が、六日午後一時三十分から市内本郷のアーバンで行われた。五年目の今年は情報ビジネス科六人、介護福祉科三十九人の合わせて四十五人が、期待に胸を膨らませ新たなスタートを切った。

来賓、保護者らが見守る中、新入生が入場。川上校長は「本校は少数精鋭で生徒一人一人の個性を大事にした教育を実践しており、福祉とは何かを二年間にわたって学習してほしい。技術の習得とともに、人の心が分かる人間に」と式辞を述べた。

大和田一彦市企画部長の祝辞のあと、新入生を代表して長谷川喜乃さん（介護福祉科）が「小さな気配りができる仕事にあこがれ、この道を選んだ。大きく発展が期待されている情報、福祉分野で活躍できるよう努力したい」と宣誓した。

同校は去る十四年に開校。東北福祉大と姉妹校締結しており、編入試験に合格すると、三年次から福祉大生となることができる。

期待に胸を膨らせる新入生

「喜寿」個展の善意

硯友会小野寺さん　ユネスコ協へ寄付

気仙沼市で書道塾「硯友会」を主宰する市内東新城の小野寺一舟さんが六日、気仙沼ユネスコ協会（佐藤春子会長）に三万円を寄付した。

小野寺さんは、去る三十日から三日間、「喜寿」記念する個展を開催。会に募金箱を用意して来場に善意を呼び掛けた。

この善意を同協会に寄たもので、小野寺さんが協会事務所を訪れ、佐藤長と荒木英夫副会長に「どもたちのために役立てください」とあいさつし善意封筒を手渡した。

佐藤会長は、「発展途国には、経済的な理由で校に行けない子どもがたさんいます。ユネスコ協は『世界寺子屋運動』を開し、募金や書き損じはき収集の協力を呼び掛けます。協力していただいたことに深く感謝しますと話していた。

この日寄付された善は、同協会が独自に協力呼び掛けた募金（一万千百五十五円）や、書き損じはがき（約二百枚）と一に日本ユネスコ協会連盟送られ、カンボジアの学

鹿折大橋付近を清掃

気仙沼

気仙沼市鹿折川河川愛護会（横山萬里会長）は、九日午前九時から鹿折大橋周辺を清掃する。

毎年恒例の清掃活動で、今年は十文字目から鹿折大橋までの約一キロの範囲。市衛生組合鹿折分会（前田昭一会長）との共催で、当日は約二十人が参加する。

四季の植物 ㉕

の生態は人々に好まれ、和歌にも詠まれ伝説も多い。

こたえん」と詠んだ和歌を見つけ、その梅を主の庭に植え替えしたという

今日の運勢

18年4月7日。旧3月10日。金曜日。

☆こよみ

今日＝世界保健デー、法然上人誕生会。

6輝＝赤口。新しいことを始めるのはもちろん